

体 系	1 文化芸術活動が活性化するための人づくり（ヒューマン施策）		評 価	A
施 策	（１）			
会の運営能力（アートマネジメント）を向上させます				
重 点 施 策 へ の 該 当	1			
文化振興課としての取組	アートマネジメント講座、市民公募文化事業、文化芸術活動団体（未来寺子屋、安城ふるさとガイドの会等）の活動支援			
進 捗 状 況	《アートマネジメント講座》令和３年度に市内で文化芸術活動を行う団体の中から１０団体を抽出して交流会を実施した。令和４年度からはアートマネジメント能力向上のためのスキルを学ぶ機会を提供するために、文化芸術活動を行う個人・団体を対象にアートマネジメント講座を実施した。毎年受講生を募集し、令和６年までに講座を３０回開催し、６４人が参加した。徐々に文化芸術活動を支える人材を増やすことにも繋がった。 《文化芸術活動団体の活動支援》未来寺子屋や安城ふるさとガイドの会等の文化芸術活動を行う団体に対して、自発的な活動を行えるように適宜助言や支援を行った。			
令和８年度以降の課題	活動をする中で実践的にスキルを習得していただくため、各団体の活動に対する持続的な支援を続けていくことが重要である。 文化芸術活動を行う個人・団体や文化芸術活動を支える人材が引き続き必要なスキルを研鑽できる機会を提供していく。 分野に限らず、他団体との交流を促進することも活動活性化のための新たな気づきの機会に繋がるため重要である。 アートマネジメントの底上げを図るために、アートマネジメント講座受講者と協働した仕組みづくりを検討していく。			

※評価については、A：計画を上回る進捗である、B：概ね計画どおりの進捗である、C：計画よりも遅れた進捗である、の3段階とする。

体 系	1 文化芸術活動が活性化するための人づくり（ヒューマン施策）	評 価	B
施 策	（２）		
他分野・他団体と交流を進めます⇒多分野・多団体と交流を進めます			
重 点 施 策 へ の 該 当	1		
文化振興課としての取組	アートマネジメント講座、市民演劇祭、市民芸術祭、展示関連事業、文化芸術活動団体（未来寺子屋等）の活動支援		
進 捗 状 況	《アートマネジメント講座》グループワークや交流会を重要視して実施している。 《市民演劇祭、市民芸術祭等》参加団体が互いの活動に刺激を受けられるように、振り返りの場や周年記念コラボレーションイベントを通して交流機会を提供した。 《展示関連事業》歴史博物館で実施する特別展や企画展と関連したイベントを実施し、様々な団体が連携してもらえるように心がけた。 《文化芸術活動団体の活動支援》未来寺子屋のような多分野・多団体の代表が参加する取組で団体間の交流も多く生まれた。		
令和８年度以降の課題	主催するイベントでは、多くの団体と連携して実施することを検討していく。 主催以外のイベントにおいても、できる限り多分野・多団体が一緒に活動できるように助言や支援できるように心がけていく。		

※評価については、A：計画を上回る進捗である、B：概ね計画どおりの進捗である、C：計画よりも遅れた進捗である、の3段階とする。

体 系	1 文化芸術活動が活性化するための人づくり（ヒューマン施策）		評 価	B
施 策	（３）			
発表場所・活動場所などを拡大します				
重 点 施 策 へ の 該 当	2			
文化振興課としての取組	市民演劇祭、市民芸術祭、市民公募文化事業、こども文化祭、企画展、部活動の地域展開における中学生の生涯学習支援、中学生日曜教室、中学生美術講座、安祥文化のさとまつり、未来寺子屋			
進 捗 状 況	《市民演劇祭、市民芸術祭、市民公募文化事業》市民の自発的な発表を促進するために幅広い分野や世代を募集し、発表場所を提供した。 《市民公募文化事業における見直し》令和５年度に事業採択及び公演評価基準を見直し、鑑賞機会及び参加機会拡大を図った。 《こども文化祭》令和７年度から新設し、こどもたちの舞台芸術発表機会の場を提供した。 《中学生日曜教室、中学生美術講座》令和５年１０月から中学校休日部活動の地域展開が始まったことに伴い、子どもたちが継続的に文化芸術活動を実施できるように新設した。（令和６年度：４０回・９３名） 《その他》安祥文化のさとまつりでは歴史団体に活動の場を提供した。支援した本證寺を舞台としたイベント等においても多くの団体の発表の場となった。			
令和８年度以降の課題	文化芸術の振興のためには活動や発表の場を継続的に確保し、新規団体・個人も自ら参加したくなる体制作りが必要である。 伝統文化や歴史に関する団体は特に高齢化が顕著である。			

※評価については、A：計画を上回る進捗である、B：概ね計画どおりの進捗である、C：計画よりも遅れた進捗である、の3段階とする。

体 系	1 文化芸術活動が活性化するための人づくり（ヒューマン施策）	評 価	B
施 策	（４）		
アウトリーチ（出張活動など）を推進します			
重 点 施 策 へ の 該 当	3		
文化振興課としての取組	アウトリーチ、まちかど講座		
進 捗 状 況	《アウトリーチ》学校を対象としたアウトリーチに加え、令和６年度からは個人が申込可能な公民館アウトリーチを実施し、文化芸術に触れる機会を提供した。（令和６年度：９校＆３館） 《まちかど講座》公民館高齢者教室や町内会等から希望があった場合に学芸員が会場に出向きテーマに沿った講座を実施した。（令和６年度：９回）		
令和８年度以降の課題	より多くの人が文化芸術に触れられる機会を提供するために実施と実証による見直しが必要である。 学校アウトリーチでは、年々申込件数が増加し、予算の都合で希望校全てに対応することが難しくなったため、今後の運営方法の整理に大きな課題がある。 公民館アウトリーチでは、参加において送迎等の新たなハードルがあることが分かった。		

※評価については、A：計画を上回る進捗である、B：概ね計画どおりの進捗である、C：計画よりも遅れた進捗である、の3段階とする。

体 系	2 誰でも文化・芸術活動に参加し、継続していけるための仕組みづくり（ソフト施策）	評 価	B
施 策	（１）		
会の運営能力（アートマネジメント）の向上させる仕組みをつくります			
重 点 施 策 へ の 該 当	1		
文化振興課としての取組	アートマネジメント講座、市民公募文化事業、ホール講習会（こども文化祭・市民演劇祭）、あんじょう家康ガイド養成		
進 捗 状 況	《市民公募文化事業》自らが主催する公演において今後の活動に活かしてもらうため、舞台や美術の専門家を含めた委員が審査員として発表者に評価意見や助言をフィードバックする仕組みを整えた。 《こども文化祭、市民演劇祭》ホール講習会を実施し、より良い発表ができるようにサポートする仕組みを整えた。 《あんじょう家康ガイド養成》「どうする家康」の放送に合わせて、新たな歴史ガイドを育成する際には、既存の安城ふるさとガイドの会と連携して実施することで、会に新たなメンバーが加入することになった。		
令和８年度以降の課題	文化芸術活動を行う個人・団体と継続的に対話することで、ニーズに合った取組かどうかを常に見直していく必要がある。 新たな取組を実施する際には、関連団体との連携によって、さらなる活性化に結びつけるための工夫が必要である。		

※評価については、A：計画を上回る進捗である、B：概ね計画どおりの進捗である、C：計画よりも遅れた進捗である、の3段階とする。

体 系	2 誰でも文化・芸術活動に参加し、継続していけるための仕組みづくり（ソフト施策）	評 価	B
施 策	（2）		
情報発信・受信のあり方を整備します			
重 点 施 策 へ の 該 当	なし		
文化振興課としての取組	SNS講座、Instagram開設、ホームページにフェアナビ導入 ※フェアナビ：高齢者や障がい者を含む、誰もがホームページ等で提供される情報や機能を支障なく利用できるようにするため、ウェブアクセシビリティをサポートするプラグイン型サービス		
進 捗 状 況	《SNS講座》令和3年度に市内で文化芸術を行う団体の中から10団体を抽出して交流会を実施し、各団体が情報発信について共通して課題を抱えていたため、SNS講座を行った。その後、アートマネジメント講座では継続的に広報に関する講義を開催し、学べる場を提供している。 《Instagram開設》広報誌、ウェブサイト、LINEの他に令和6年度から芸術文化係Instagram開設し、情報発信を強化した。 《フェアナビ導入》令和7年度からホームページにフェアナビを導入した。		
令和8年度以降の課題	文化芸術活動団体の情報発信力向上をバックアップするだけでなく、自らの発信力を向上させることも重要である。そのための媒体や手法を積極的に取り入れる努力が必要である。		

※評価については、A：計画を上回る進捗である、B：概ね計画どおりの進捗である、C：計画よりも遅れた進捗である、の3段階とする。

体 系	2 誰でも文化・芸術活動に参加し、継続していけるための仕組みづくり（ソフト施策）	評 価	B
施 策	（４）		
発表機会（イベント）や活動場所が確保できるように誘導します			
重 点 施 策 へ の 該 当	2		
文化振興課としての取組	部活動地域展開に伴う中学生の文化芸術活動支援、アウトリーチ、歴博演芸場、さとまつり歴史団体の発表		
進 捗 状 況	《部活動地域展開における中学生の支援》中学生を受け入れ可能な団体リストを市公式ウェブサイトや生涯学習情報誌に掲載する等、中学生の文化芸術活動を支援するための仕組みを整備した。 《アウトリーチ》令和５年度から地元アーティストを活用した学校アウトリーチを実施し、地域とこどもの繋がりを作った。 《歴博演芸場》日本の伝統芸能文化の普及を図るため、エントランスホールや石舞台での鑑賞会を実施した。（令和６年度：９回） 《さとまつり》安祥文化のさとまつりでは、日頃の活動を対外的に発表することが少ない歴史団体が発表できる場を設けている。		
令和８年度以降の課題	継続した取組であればあるほど、対象団体が固定化する傾向にあるので、新規の団体が参加しやすい体制作りが重要である。 新たな場所や機会を提供できるよう検討が必要である。		

※評価については、A：計画を上回る進捗である、B：概ね計画どおりの進捗である、C：計画よりも遅れた進捗である、の3段階とする。

体 系	2 誰でも文化・芸術活動に参加し、継続していけるための仕組みづくり（ソフト施策）	評 価	B
施 策	（7）		
学校と地域の協働による活動機会を確保します			
重 点 施 策 へ の 該 当	3		
文化振興課としての取組	中学日曜教室、部活動地域展開における音楽団体の体育館の利用、アウトリーチ、講師派遣、見学学習の受入、まちかど講座、出張土器作り教室、出張博物館		
進 捗 状 況	《部活動の地域展開における音楽団体の体育館の利用》音楽団体登録の仕組みを整備し、音楽団体が中学校施設開放を利用できるようにした。 《見学学習》市内の小学校6年生と中学2年生に歴史博物館、市民ギャラリー、埋蔵文化財センターの見学や火起こし体験、土器さわり体験等の見学学習を実施した。（令和6年度：3，194人） 《まちかど講座、出張土器作り教室、出張博物館》直接学校や町内会へ出向いて文化芸術に触れる機会をつくった。（令和6年度：29回）		
令和8年度以降の課題	文化芸術の振興において、学校教育や地域との連携が必須であり、より一層の取組拡充が必要である。なお、連携に際しては、より積極的なアプローチを検討していく。		

※評価については、A：計画を上回る進捗である、B：概ね計画どおりの進捗である、C：計画よりも遅れた進捗である、の3段階とする。

体 系	2 誰でも文化・芸術活動に参加し、継続していけるための仕組みづくり（ソフト施策）	評 価	B
施 策	（8）		
他分野・他団体との交流・協力を進めます			
重 点 施 策 へ の 該 当	1		
文化振興課としての取組	アートマネジメント講座、市民演劇祭、こども文化祭、アウトリーチ、各種体験講座、1日子ども学芸員体験、子どもと家族の青空写真撮影会、西三河棒の手交流大会、安祥文化のさとまつり		
進 捗 状 況	《アートマネジメント講座、市民演劇祭、こども文化祭》出演者が実行委員となり、交流を図る仕組みを実施している。中には、出演団体同士のコラボレーションにより新たな活動機会が生まれた団体もあり、交流のきっかけづくりを行うことができた。 《1日子ども学芸員体験、子どもと家族の青空写真撮影会》歴史博物館では、安城青年会議所、愛知大学写真研究部や近隣町内会と協働でイベントを実施した。 《安祥文化のさとまつり》三河万歳演舞を市内3校、市外2校が披露した。 《西三河棒の手交流会》令和4年度に市制70周年記念事業として実施し、豊田市・みよし市・西尾市の団体を招いて交流の機会を設けた。		
令和8年度以降の課題	交流及び協力の促進については、関連団体同士の対話の機会をサポートすることで、新たな取組が生まれるきっかけとなりうる。 社会潮流や周年事業等の機会を意識し、事業を計画することでメリハリのある運営を引き続き検討していく。		

※評価については、A：計画を上回る進捗である、B：概ね計画どおりの進捗である、C：計画よりも遅れた進捗である、の3段階とする。

体 系	2 誰でも文化・芸術活動に参加し、継続していけるための仕組みづくり（ソフト施策）	評 価	B
施 策	（9）		
文化芸術に触れる機会を増加・拡大を検討します			
重 点 施 策 へ の 該 当	2、3		
文化振興課としての取組	県共催特別展、あいち国際芸術祭協力、収蔵品展、展覧会、芸術鑑賞会、市民公募文化事業、常設展示、連続講座（村絵図を歩く、中京大学連携講座）、障がい者施設等への展示周知、音声ガイド導入、史跡を巡るバスツアー、現地説明会、指定文化財発表、文化庁国庫補助金活用		
進 捗 状 況	《展覧会、県共催特別展等》毎年秋に行う企画展では、収蔵品と共に障がいの有無や国籍を問わず市内小中学生から寄せられた作品を展示することで、多様な子どもたちに参加・鑑賞機会を提供した。特に、令和6年度は県共催特別展も行い、市外所蔵の作品を展示するほか、触れる展示品コーナーを導入した。 《芸術鑑賞会事業》市民の良質な鑑賞機会を提供するために幅広い分野・世代に向けたコンサートを実施した。 《音声ガイド導入》音声ガイドの無料貸し出しや外国の方へタブレットの貸し出しを行うなど展示鑑賞を補助した。 《現地説明会》発掘現場における現地説明会を開催し、本物の遺跡を見てもらえるようにした。 《その他》障がい者施設や高齢者施設に情報提供を行い、来館に繋げた。		
令和8年度以降の課題	芸術鑑賞会事業はコロナ禍以降鑑賞者が減少しているため、鑑賞ノートや学校アウトリーチとの連携を強め、より充実した鑑賞に繋げることで入場者数を増やしていく。 障がいのある方や高齢者等も含め、より多くの人が文化芸術に親しんでいただけるように検討していく。		

※評価については、A：計画を上回る進捗である、B：概ね計画どおりの進捗である、C：計画よりも遅れた進捗である、の3段階とする。

体 系	2 誰でも文化・芸術活動に参加し、継続していけるための仕組みづくり（ソフト施策）	評 価	B
施 策	（１２）		
感染症と共存した文化芸術のあり方を示します			
重 点 施 策 へ の 該 当	－		
文化振興課としての取組	文化庁のガイドラインに沿った事業実施、キャンセル料の減免、市民演劇祭での整理券導入、触れる展示の工夫、講座にリモート導入		
進 捗 状 況	《文化庁のガイドラインに沿った事業実施等》緊急事態宣言中は、文化庁のガイドライン及び利用施設の指示に沿って事業を実施した。 《リモート導入》講座室の映像と音声を体験学習室で見ることができるよう改修し、記念講演会のリモート聴講ができるようにした。 《その他》キャンセル料の減免、市民演劇祭での整理券導入、アルコール消毒を講じながら触れる展示の工夫を行った。		
令和８年度以降の課題	感染症と共存して事業を実施したノウハウや設備を今後も引き継いでいく必要がある。		

※評価については、A：計画を上回る進捗である、B：概ね計画どおりの進捗である、C：計画よりも遅れた進捗である、の3段階とする。

体 系	3 文化・芸術活動を長期的に支える環境づくり（ハード施策）	評 価	B
施 策	（１）		
発表場所・活動場所を確保します			
重 点 施 策 へ の 該 当	2		
文化振興課としての取組	入場料の緩和、アウトリーチ、エントランスコンサート&イベント、歴博演芸場、安城七夕まつりでの発表		
進 捗 状 況	《エントランスの活用》さとまつりや特別展関連イベント時には市民ギャラリーエントランスを発表の場として活用し、他分野に興味あるお客様を相互に誘導した。 《安城七夕まつり》芸能関連の発表の場を調整した。		
令和８年度以降の課題	短期的な環境づくりに取り組んでいるが、今後はより中長期的に環境づくりを検討すべきである。多くの団体に活用してもらえるよう、仕組みや情報発信方法を見直し続ける必要がある。		

※評価については、A：計画を上回る進捗である、B：概ね計画どおりの進捗である、C：計画よりも遅れた進捗である、の3段階とする。

体 系	3 文化・芸術活動を長期的に支える環境づくり（ハード施策）	評 価	B
施 策	（８）		
文化芸術活動における感染症対策を行います			
重 点 施 策 へ の 該 当	－		
文化振興課としての取組	危機管理マニュアルの作成、石舞台の活用、エントランスコンサート		
進 捗 状 況	《危機管理マニュアルの作成》令和３年度に感染症を含めた災害等対策の初動体制についての危機管理マニュアルを作成した。 《石舞台、エントランスの活用》石舞台や市民ギャラリーエントランスを活用し、「三密」を避けてイベントを実施した。		
令和８年度以降の課題	危機管理マニュアルは定期的に見直す必要がある。		

※評価については、A：計画を上回る進捗である、B：概ね計画どおりの進捗である、C：計画よりも遅れた進捗である、の3段階とす